

1世紀の歩み次世代へ

弥彦神社遷座100年で記念誌

弥彦神社が、遷座100年「い」と話している。年の記念誌を作成した。明治から現代までの神社の歴史や、記念事業の内容などを紹介している。関係者100人に、社に残る史料などを基に、弥彦村の歴史や、2012年から約5年、歴史や人々の思いを、次の100年に伝えていきた。2部構成で、1部には明



神職らが5年ほどかけて作成した遷座100年記念誌「弥彦村」

社殿建造の経緯、歴史掲載

治元年から現代までの神社の歴史を紹介。2部では15年から1年間行われた奉祝行事など記念事業の内容を記した。

記念誌によると、弥彦神社は1912(明治45)年、門前町で発生した大火の類焼により現在の宝物殿近くに建てていた社殿などが焼失した。「越後一の宮を焼けたままにはできない」と、当時の神職らが全国各地を回り、寄付金を募った。神社によると、寄付した人物の中には、新発田市出身の実業家大倉喜八郎(1883-1928年)もいたという。

13(大正2)年、集まった寄付金などで、かつての社殿の位置から西に約177メートル離れた場所に、新たな社殿の建造がスタートした。16年に完成し、同年10月に祭神を遷座した。2015年には遷座から100年を迎え、記念事業として神社では境内に弓道場や相撲場などを整備。桜の植樹や相撲場開きなど数々の奉祝行事も行った。記念誌では各行事を担当した神職らが、その内容をまとめて記事にしている。

B5判、542ページで500部作成。弥彦神社によると、記念誌は非売品だが公民館図書室や県立図書館などで閲覧できるといふ。

渡部吉信権宮司は「神社や郷土の歴史に関心を持つきっかけにしてほしい」と話した。

いつになるのか弥彦村の梅雨明け



「いよいよ梅雨明けか。しかし、喜んではいられないほどの猛暑の予報。全国各地で報じられている熱中症が心配だ。我が弥彦村でも他人事ではない事例が過去に起きてい

なすが積極的に勧誘し、しづりに大学のサークル合宿があったが、熱中症が発生、まかり間違えば取り返しのつかない事故につながるとのことであった。

その会場以上に危険と言われている弥彦体育館は建設時から議員たちが窓や換気の問題、容易に二階へ行くことができ

ないなど体育館としての機能が足りない、不適切な施設と追及、最近まで各所でその不具合を指摘・報告していた。

数年以上前には体育館でその大学サークルが合宿し、やはり熱中症に悩まされた。この危険な会場では今後は来ることはないが、窓や換気の問題、容易に二階へ行くことができるのに昨年、合宿を勧誘し

た。関係者はそれらを周知していたのだろうか。人為的事故になることへの寸前であったのに。村当局もそれは承知していたはずであり、関係者に注

意事項を指導していたのかも疑問である。

しかし、元々はこのように不具合な施設を建設した当時の村当局に疑問。疑問についてこの体

レーザー加工
株柳田製作所
 燕市吉田下中野
 (株)吉田金属センター
 TEL(0256)92-6861
 FAX(0256)92-5683

育館を落札工事した大手ゼネコンとの談合疑惑はマスコミで報じられ、議会でも紛糾した経緯がある。

また、ヤホールも冷暖房機能やトイレがなく、状態から、自身で考え、自分の足で歩こうとする努力が肝心だ。冒頭の熱中症対策のように、施設の不具合、村の財政悪化

(トイレはその後離れたところに設置)、避難場所としては不適切なものであるとも。

それはさておき、ことは村外から各種団体の合宿などはあるのだろうか。工事入札に村外などからの応札で村に刺激を与えてくれるだろうか。

村外出品者の多い菊祭りがいつまで続けられるのか。国外・県外・村外から多くの観光客、業界などが不安、不満、不信感をもち、こころなげに訪れていただくようにする努力が必要。神社・競輪の恩恵でいつしか中絶に近づいていることに気づくべきだ。

その中での思考停止状態から、自身で考え、自分の足で歩こうとする努力が肝心だ。冒頭の熱中症対策のように、施設の不具合、村の財政悪化などに目を背けるのではなく、しっかりと現状に向き合い対策を立て、弥彦村が村民が傍から見捨てられないようにするた

めの知恵を出さなくてはならないか。弥彦村の梅雨明けはいつになるのか。

(弥彦ファースト民)